

漢方の知識を楽しく学ぶ

茨城県稲敷郡にある「ツムラ漢方記念館」は、「漢方・生薬を学ぶ・知る・楽しむ」をテーマに、漢方医学の歴史や生薬の種類、製品の製造工程など、漢方に関する幅広い知識を楽しく学べる施設だ。館長をはじめ、4人いる専門職員が、展示品を分かりやすく丁寧に説明してくれる。完全予約制ということもあり、ゆっくりと見学できることも魅力。見学の所要時間は2時間半程度だが、解説の面白さも相まって、時間が経つのを忘れてしまうほど。薬学部の早期体験学習など、医療系の学生の学習の場として、広く活用されている

ツムラ漢方記念館

理由がよく分かる。



建物中心は吹き抜けとなっており、開放的な空間が広がる

17万8000㎡という広大な敷地面積を誇るツムラ茨城工場の一角に、ツムラ漢方記念館は建っている。2008年度に、日本産業デザイン振興会が主催するグッドデザイン賞(分類＝公共施設・建物)を受賞した建物は、従来の博物館とは異なる革新的なデザイン。建物の中央は吹き抜けになっており、記念館のどこにいても全体が見渡せる。天井に設けられた大きな窓からは太陽光が差し込み、晴れた日は特に気持ちがいい。

玄関を入ってまず目に入ってくるのは、24種類の生薬の花を写真で紹介した巨大なパネル。ホールを挟んだ向かい側には、ツムラが実際の製品に使用している116種類の生薬を、それぞれ透明な筒型ケースに収め展示している。いずれも、美術館のオブジェのようで美しい。

壁に沿って展示されているのは、漢方医学の歴史年表や主要な古医書など。薬学生が、特に興味を持って見学していくエリアだという。圧巻なのは、医師の倫理や医学総論、各種疾患の治療法までが書かれた平安時代の医

学書「医心方」の複製品。国宝に指定されており、ほとんど公開されていないが、ここでは第22巻の複製品を見ることができる。

2階は、ツムラの環境への取り組みやトレサビリティ精神、製品の製造工程などを説明するフロア。実際の生薬に触れることができる体験コーナーが設けられている。ツムラの製品の中から、花粉症の季節にはその対応処方、また女性の見学者が多いときに

は、女性疾患に関わる処方をと、見学者の目的に合わせた分かりやすい処方を選び、その原料となる生薬の実物を紹介している。手触りや香りなどを確認することが可能だ。横には薬研が用意されており、粉末にする体験もできる。特定の漢方薬に興味がある場合には、事前に相談すれば可能な範囲で対応もしてくれる。

建物の裏には、薬草見本園を併設。約240種類の植物が栽培されている。葛根湯や加味逍遙散、六君子湯といった漢方方剤別に、原料となる薬草を一区画に並べて植えるなど、とても分かりやすい構成になっていて面白い。

しかし、これらの展示品も、来館者が自主的に見学しただけでは、十分な知識を習得することは難しい。そこで重要になってくるのが、展示品の解説をしてくれる職員の存在だ。実際に館内を案内してもらおうと、本当に楽しく分かりやすい。2時間ほど案内してもらったが、時間が短く



見学風景

感じられた。漢方の知識がなくても、これなら安心して見学ができる。薬学部や医学部、看護学部といった医療関係の学校が、学生の教育の場として記念館を選ぶ理由が分かった気がする。中には、大学の部活や同好会の友人同士で訪れる学生もいるほどだとか。

学生の満足度も高く、来館時に実施するアンケート調査でも、90%以上が「満足」「たいへん満足」と回答している。確かに、これだけ楽しく勉強ができる施設も珍しい。ぜひ、一度足を運んでみては……



記念館の外観



ライトアップされた生薬はまるで美術品のよう

ファーマネット2012 2011年国家資格取得予定者も登録可能！

皆さんの就活に
あわせて検索！

**地域に根づいた薬局が見つかる！
薬学生の「薬局就活」サイト**

勤務地で
検索ができる！

働く薬局店舗の
詳細が見られる！

薬局に特化したファーマネット厳選の情報が満載！
2010年7月から会員登録スタート
登録後、まだ掲載していない薬局の情報もお届けします！

ファーマネット

検索



地元に戻って
就職したい！